



ひまわり通信

No.00757. 2026.2.26(木)

健康寿命から貢献寿命へ

土からの医療 ～医・食・農の結合を求めて～ No.1

公立菊池養生園診療所所長 医師：竹熊宜孝 著

●いのちの教育

病気は医者がおこなっているんじゃない

私は別に、医療を告発するとか、あるいは医者のお口を言うつもりで、毎日こんなおしゃべりをしているわけじゃございません。ただ、医学を見る場合に、いろんな見方があるんじゃないかなろうか、ということで私が感ずるままにおしゃべりをしているわけでございます。

私はどうも、病気というのは医者がおこなっているんじゃない。という気がするわけです。皆さんは、例えば風邪をひいたとか、お腹が痛いとかいうような簡単な病気でも、ましてや手術を要するような病気でも、それがなおったら、これはお医者さんになおしてもらった、というような気持ちが強いんじゃないか。医者を命の恩人だというような言い方さえすることがございます。

ところが、医者がいくら上手に胃を切って、それをどんなにうまく結び合わせたとしても、それが繋がってくれなきゃ、結局は治療にはならないわけです。それがなぜ繋がるのかっていわれると難しい話になりますが、要するに自然にというか、もともとというか、私たちの体自体にそういう働きがあるということです。自然に繋がるようになっているわけなんです。それを私たちは、なおしたの、なおしてもらったのと騒いでいるのです。

どうも人間の方が勝手に、ありゃいかん。こりゃいらんなんて言って切っているのも、医学というものの一面かもわかりませんが、それはそれでやむを得ないこともたくさんございますが、最近はどうも必ずしもそうではないような傾向にあります。

そういう意味では、医学は、非常に進んだ面と、同時に大変迷路に迷い込んでいる面があるような気がいたしまして、これを一つ皆さんと一緒に考えていこうというのが、私の今の在り方でございます。

私はかれこれ20年近くも医者をやっておりますが、その間、自分で患者さんをなおせたっていう実感があるのは非常に少のうございます。“生命（いのち）を守る”という言葉がありますが、誰が“守る”のかというと、やっぱり皆さん方一人一人が守っているのです、皆さんの方でひとりになおっているのです。いらんことをしないと、たいていなおっております。

例えば、「血圧はどないして先生なおりますか」というような質問がよくありますが、そんな時は逆にこっちから「どがんすると血圧が上がったとですか」と聞き返したいわけですね。血圧が上がるようなことをなさっておるわけでありまして、タベ遅くまで徹夜で仕事をしたとか、あるいはマージャンしておったとか、酒飲んでいたとか、あるいはまた、寒かそこへ行って、漬物、たくあん、梅干し、塩魚など塩気を毎日たっぷりとりなされた方もおそらくあると思っておりますが、こっちから一人一人に「どがんしたけん、おたくの血圧が上がったとですか」と聞けば、実はその裏返しが治療になるわけでございます。**原因はみんな御自分でおつくりになっていることが多いのです。**

イスラエルの赤い宝石「ドナリエラ」愛の一粒運動実施中！！

株日健総本社 兵庫特約店

(有)クロスタニンひまわり

☎ 0120-42-8198